

平成21年度全国学力・学習状況調査

概 要

4月21日に実施した「全国学力・学習状況調査」の結果が、文部科学省から公表されました。この調査は、

- (1) 全国的な義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、各地域における児童生徒の学力・学習状況を把握・分析することにより、教育及び教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図ること、
 - (2) 各教育委員会、学校等が全国的な状況との関係において自らの教育及び教育施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立すること、
 - (3) 各学校が各児童生徒の学力や学習状況を把握し、児童生徒への教育指導や学習状況の改善等に役立てること、
- を目的に行われたものです。

実施の状況

- (1) 調査対象 小学校第6学年の全児童、中学校第3学年の全生徒
- (2) 調査内容 ・教科に関する調査（国語、算数・数学）
A・・・主として「知識」に関する問題
B・・・主として「活用」に関する問題
・生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

結果の公表について

- (1) 国・県の基本方針
実施主体である文部科学省の通知及び兵庫県教育委員会の指導において、今回の調査結果は学力の一部を示すことを踏まえ、また実施要領の趣旨に沿って市町間や学校間の序列化や過度な競争を招くことのないよう、市町ごと学校ごとの数値による公表は行わないことが求められています。
- (2) 猪名川町の基本方針
参加主体である全国の各市町は、国が示した実施要領の趣旨に同意して今回の調査に参加しています。一部の市・区において数値による結果を公表したところがあるが、本町においては、すでに今年1月と5月に町独自に実施した「猪名川町中学校学習到達度調査」の結果（ゆとり8月15日号（1月実施分のみ）及び教育支援

室ホームページで公表)を公表していることと、町全体の平均に目を奪われることなく一人一人の児童生徒の学力を向上させていくことに主眼を置くことを重視し、実施要領の趣旨にしたがい数値による公表は行わないことを決定しています。

(3) 各学校の公表

町内の各学校において、それぞれ調査結果を分析し学習指導の改善策を検討するための委員会を設置し、その結果を今後の教育活動に生かすとともに、2月中に学校だよりで公表しています。また、懇談等において、学級担任から一人一人の児童生徒に学習方法や生活習慣の改善などについてアドバイスをを行います。

(4) 「学力」について

「学力」は、知識や技能はもちろんのこと、自ら進んで学ぶ意欲や、自分で課題を見つけ自ら学び、主体的に判断して行動し、よりよく問題解決する力を含むものです。したがって、今回の調査は「学力全体」を把握できるものではなく、あくまでも「学力の一側面」として受け止める必要があります。

今後の予定

猪名川町では、平成17年度から、新しい猪名川の教育「わくわくスクールプラン」を策定し、子どもたちに「確かな学力」「豊かな心」「たくましい体力」からなる「生きる力」をはぐくむための教育を進めています。その核になっているのが「就学前教育から小学校・中学校」までの一貫教育です。校種をこえて、保育士・教師が連携して、子どもたちを連続した目で見守りはぐくむ教育が定着してきました。たとえば、中学校区ごとに、小学校と中学校の教員による一貫カリキュラムの開発や、合同研修などを実施しています。

今後は、「わくわくスクールプラン」の柱として推進している特別支援教育の取組を生かし、一人一人の児童生徒の学習・学力の状況を的確に把握するところから、指導内容や指導方法について、町をあげて研究していきます。

教科に関する調査結果

国語、算数・数学ともに、今回出題された学習内容を概ね理解しており、猪名川町の児童生徒の基礎・基本の定着率は高いのですが、全国の傾向と同様に、「活用」（知識や技能を活用する力、応用力）にやや課題が見られます。

【小学校】

国語A（知識）	「書くこと」の領域は、全国と同様に他領域に比べて正答率が高い。「言語事項」については全国と同様に他領域に比べて低く、漢字の読み書き等は定着しているものの、接続語の適切な使用等に課題がある。
国語B（活用）	「書くこと」の領域は全国平均と比べると正答率が高いものの、全国と同様に他領域に比べて正答率が低く、目的や意図に応じて必要な事柄を整理して書く力に課題がある。
算数A（知識）	「数と計算」の領域は、全国と同様に他領域に比べて正答率が高い。概ね良好な結果で、基礎・基本が定着していることがうかがえる。
算数B（活用）	全国の傾向と同様に「数学的な考え方」にやや課題が見受けられる。また、記述式の出題は総じて正答率が低かった。

【中学校】

国語A（知識）	国語への関心・意欲・態度が非常に高いことがうかがえる。4つの領域の中では特に「話すこと・聞くこと」の領域の正答率が非常に高い。
国語B（活用）	いずれの領域も良好な結果で、特に内容と関連付けて自分の考えを書く問題の正答率が非常に高かった。
数学A（知識）	いずれの領域も良好な結果で、学習内容の理解度が高いといえる。
数学B（活用）	全国の傾向と同様に、問題Aに比べて正答率が低く、知識・技能を活用する力に課題が見られる。

生活習慣等に関する質問紙調査結果

基本的な生活習慣、学習に関する関心・意欲・態度、家庭でのコミュニケーション、規範意識など③前後の項目について調査が行われました。文部科学省では、これらの質問に対する回答と、国語、算数・数学の平均正答率との相関関係についても結果を示しています。たとえば、朝食を毎日食べる子、読書が好きな子、家の人と学校での出来事について話をよくする子や新聞・ニュースに関心がある子には、正答率が高いという傾向が出ています。